

事業所名 グループホーム白寿荘
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 1月20日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 理学療法士
資格・経験 障害児施設勤務(20年)、理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師
B:現職 介護保険施設勤務
資格・経験 社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>基本理念の実現に向けて目標を立て、入居者と向き合う職員の姿勢を一つにして日々取り組んでいる。「老後の安心を心で支える」ために、真心のこもった介護を提供し、入居者が安心して快適に暮らせるホームをめざしている。</p> <p>職員は、入居者一人一人と家族のように接し、入居者のありのままを受け入れ、包み込む姿勢でケアにあたっており、入居者それぞれがその人らしく、自由にのびのびと暮らせるホームをめざしている。入居者の思いや、根本にある不安や喜び等を日々の暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係作りに努めている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者一人ひとりの個性や、ペースに合わせた支援を心がけている。入居者とのコミュニケーションを大切にしており、台所で食事の用意等業務を行いながら、入居者と家族のような遠慮のない会話を交わしている。</p> <p>認知症を理解し、問題となる行動を日々の触れ合いや観察の中できちんと分析し、入居者が安心してホームで暮らせるよう支援している。帰宅願望が表れた時には、原因の把握に努め、職員間での話し合いを重ね、統一した対応を行うことで入居者の不安を解消し、落ち着いた気持ちで過ごしてもらえるように努めている。</p> <p>入居者一人ひとりの心身の機能と、日常生活の中でできる事・できない事を把握し、入居者の現状に即した介護計画を作成し、より心穏やかに生活できるように支援している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

J R 津山線の佐良山駅から車で5分ほど行った山腹にホームはある。平成13年に東北で最初に開設された歴史あるホームで、平成17年には新たに1ユニットを開設し、「老後の安心を心で支える」場所として、真心のこもった支援を行っている。家庭的な温かみのある暮らしを提供し、入居者が安心し、より心豊かな暮らしを営めるよう、地域とのつながりを大切にしながら入居者を支え続けている。

医療機関との連携体制を整えており、日常的な健康管理や緊急時にもすぐに対応できる。また、ホームの職員として常勤の看護師を配置し、オンコール体制で入居者の健康管理を行っており、万全な医療面でのバックアップにより入居者は安心して生活できる。

入居者の家族への思い、家族の入居者への思い等、入居者と家族との意思疎通が入居者を支援するうえで肝要であり、「面会者、状況、連絡、対応、要望記録」のファイルを作成し、家族との面接時のやりとりや電話の内容、入居者の様子や反応等を詳細に記録している。入居者本人はもとより、本人を取り巻く人たちの思いをより深く理解しようとする努力している。

併設する介護老人福祉施設やデイサービス等と合同で毎月の行事を計画し、各方面の方々との交流を図っている。納涼祭には、地元青年団のボランティアや地域の方が大勢訪れており、毎年欠かせない行事の一つとなっている。また、毎月、各事業所が自慢の手料理を持ち寄ってバイキングを行っており、入居者・家族共に好評である。様々な行事を通して、ホーム以外の職員とも顔見知りの関係ができていく。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特に改善の余地があると思われる点はない。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>職員は、ただ優しく接するのではなく、入居者を心から尊敬し、それぞれの思いを大切に受け止めながら家族のように接している。</p> <p>家事や机上作業等、関心を持って自分からやりたくなるように働きかけ、若い頃の生活や昔の風習なども教えてもらい、張り合いや楽しみのある暮らしとなるよう支援している。</p> <p>心身機能が低下しても、動作分解や工夫を凝らし、入居者の希望も合わせながら、一人でもできる部分なるべく維持していけるように取り組んでいる。居室のカレンダーに錠剤を張り付けてもらい、薬を自己管理されている方もおられる。</p> <p>書類はすべて事務室で管理し、個人の情報を他に洩らさないように留意している。また、全員の家族に了解を得てから、居室の入り口に名前を付けている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>年間計画をもとに、外部・内部の研修会に参加し、知見を深めている。法人合同での研修には外部から講師を招いたり、介護実習ではテーマを決めて職員が講師になる等熱心に取り組んでいる。全員で情報を共有し、法人全体で介護水準のレベルアップを図っている。</p> <p>毎月の全体会議のほかにも、向上委員会、企画委員会、管理委員会の各委員会を定期的に開催し、サービスの質の向上に努めている。各種マニュアルも充実しており、職員全体が共通認識を持って現場で実践している。</p> <p>避難訓練は、入居者を交えて年3回以上実施している。地元消防団の協力を得て大がかりな訓練も行っている。「火災ビデオ」を用いて職員の勉強会も実施し、入居者の安全・安心な生活を守っている。</p> <p>面会者には、1人ずつカードに記入してもらい、個別の『面会表編り』にまとめて事務所で保管している。</p>		